

2024年度 佐久長聖高等学校 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重し、楽しく充実した学校生活を通して、生徒たちが魅力的な人間に成長できる環境整備を積極的に推進する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 魅力ある授業を生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 生徒の進路実現に向けて、進路指導體制の発展に努める。 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 学校の教育活動を生徒や保護者、本校志願者、地域に対し、幅広く情報発信を行う。
------	---

評価
A: 十分
B: 概ね十分
C: やや不十分
D: 不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導 進路指導	生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業が行えたか。	B	毎授業の録画データをストックし、公欠者や考査前にも利用できる形にし、いつでも振り返りが出来るようにしている。ノステップアップしたい生徒たちへ、授業時間外で具体的な学習アドバイスや課題を個別に提供し、定期的に学習結果をチェック・質問を受けるなどした。ノ生徒たちの英検や模試への取り組みに変化が見られた。ノ生徒自身が答えを考える場面を積極的に設定した。	主体的に取り組んでいける集団ではあると思うが個として主体的に学習に取り組んでいけるかは疑問が残るので更に手を入れていきたい。ノ取り組む意欲を引き出す方法が「出来るようになる」以外になにかあるか考えたい。ノ自己学習することが難しい生徒に対し、関心を引き出す工夫が不足していた。ノ活動量を減らさないようにすることと、思考などをまとめる時間の確保のバランスが難しい。
		問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業を展開できたか。	B	グループワーク時に、それぞれのグループの技能力に合わせた課題を提示し、それらを解決できたかを評価基準とした。ノロイノートを通して、匿名でお互いの発表内容を閲覧できるようにして、いかに他者にわかりやすく表現できるかを考えさせる機会を作れた。ノ教科横断型学習、表現力の育成を目標に、教科書で扱われているテーマに関するレポート作成、プレゼンを全員にやらせている。	進路優先をし、問題発見力や課題解決力にまで時間をさけなかった。ノ課題の内容によっては、単純な「よい」「わるい」または「面白かった」などの文章に終始する生徒が多かったのが課題。こちらから課題を与えるのではなく、生徒自身で課題を設定するよう計画してもよかった。ノグループ活動に見合った内容でないと、グループにしても関係ない話をしてしまう所もあったため検討することが大切。
		生徒の希望進路を実現するために、大学入試についての研究を行い、生徒個々に対応した指導が行えたか。	B	生徒が希望進路に対して意欲を持ち続けられ、達成感を得られるように努めた。ノ総合型選抜や学校推薦型選抜に関して国公立や難関私立などでも合格者を出すことができた。ノ大学入試問題などに取り組ませ生徒の記述解答を添削し、それを匿名でオープンにし、全生徒が互いに閲覧できるようにした。ノ寮生活や生徒とのコミュニケーションなどを通じて、生徒の目指している将来像や姿を把握し、進路相談に対して親身に対応するように心掛けた。	進路が「まだ決まっていない」生徒の進路についてうまくサポートできなかった。ノ生徒の言葉で表現できるように指導するにはどうしたらいいか、次年度も考え続けたい。ノ担任、教科担任、クラブ顧問それぞれの立場での教員間連携が必要である。ノ時間が限られた中で生徒一人ひとりとどの面談の時間を捻出するのに初めは苦労したが徐々に私も時間を見つけ面談に充てられるようになってきた。
		大学のさらに先を意識しながら進路を考えられるようなキャリア教育や進路指導を実践していたか。	B	就職の場で、どのようなスキルを求められるか理解できるよう支援した。ノ志望理由書の指導で、大学を志望する理由に絡めて卒業後の進路を考えさせた。ノ自己PRや志望理由書の書き方、面接対策など、就職活動を見据えたスキルが身につくよう努めた。ノ総合探究の場面では個別に将来の研究分野について話すこともできた。ノ大学合格がゴールでないことを理解している生徒は多い。	個々の面談でもう少しカバーできればよかった。ノ社会問題に興味関心を持てるよう促すことが難しく、主体的に取り組ませることが非常に難しい。ノ教師自身の見識を深める必要がある。ノ保護者と意見が食い違っている生徒場合、双方の話を聞きながら引き続き対応していく必要がある。ノ全ての生徒の琴線に触れることは難しく、様々なアプローチが必要であるが、その準備に時間がかかり、増やすことが難しい。
2	生徒指導	校内外問わず、いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校を送るための啓発活動を行い、情報収集を行えたか。	B	特に生徒からの情報を得やすい環境づくりをし、情報は素早く入手できた。ノインターネットからの記事やコメントなどを引用する時のルールについてオリジナルで授業を行った。ノ生徒の通報を受けたらすぐに正副担任で情報共有の後で当事者と事実確認をし、クラス全体へ向けてSHRやLHRを活用して話をすることができた。ノ毎日のHRで全員の様子や表情を確認することを意識し、少なくとも1日1回は全員と会話することを徹底した。	普段からインターネット上の記事や文章を問題意識なくそのまま受け入れる生徒が多いとは感じる。ノ自分から伝える生徒はいいが、発信できない生徒を見逃しがちである。ノ学校の近くに住んでおられる方々は我々が思う以上に学校のことを見ているし、理解していると感じる。ノ私自身、生徒の人間関係に対するアンテナは低いと思っており、だからこそ意識して掴もうとしているつもりである。
		生徒に体罰や暴言と捉えられるような言動を行わなかったか。	A	生徒に丁寧な対応を心掛けたのはもちろん、基本的には保護者と連携しながら対応するように心掛けた。ノ授業内で答えられない場合などにフォローのコメントは必ずするように心がけている。ノ声がけは笑顔で行う。一方的に攻めず、生徒の気持ちや理由を聞いてから、こちらの思いを伝える。ノ感情的に怒鳴ったりすることなく、冷静に話すよう努めた。ノなかったと思うが、常に完璧ではないと心がけていきたい。	指導するときには、人格や本人そのものの否定ではなく、よくなかった行動や態度について注意をしてきたつもりですが、生徒がどのように感じているかは別の問題。ノ嫌われるのは構わないが「あの先生は嫌いだけど言っていることは正しい」と思われる教師を目指したい。ノ生徒に関する話題を、無防備に廊下や職員室でしないようにしたい。ノ遠回しな表現では本意が伝わらないもどかしさも感じた。
3	保護者連携 地域連携	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	学級PTA、三者懇談では保護者の話を伺う場面を必ず作り、生徒の情報交換を行ってきた。ノ体調不良で欠席したり、気になることがあった日には必ず家庭に連絡を入れることを続けてきた。ノオープンスクールや文化祭などでは誠実に対応することを意識しました。ノ保護者からの連絡にはその日のうちに電話連絡をし、その後、決定事項についても連絡をし、その後の様子で気になることがあれば再度連絡をするようにした。	一度私用のケータイを使ってしまうと、他の保護者にも拡散され、時間外でも夜間でも対応してくれるのが当たり前になってしまうことが負担である。ノ報道の記事に対しての質問や愚痴を学校関係者に言われると対応に苦慮する。ノ保護者から休日・夜間でも連絡が来ることもあり、プライベートの時間が削られてしまうことがある。
		ホームページ・Classi等で積極的に学校・学年・学級・クラブ等の情報発信ができたか。	B	学年では持ち回りで学年通信を毎週発信した。クラブでも積極的にClassiを活用し情報を発信してきた。ノほぼすべての授業を録画し、youtubeに上げている。生徒を通じて、保護者も見ていると思われる。ノ行事ごとに生徒全員が写っているか確認しつつ、学級通信を発行するよう心掛けた。ノ部活動に関しては部の保護者に対しては例年通り発信したつもりである。ノ	Classiで見ましたを押してくれている保護者は把握できるが、全員が見ているかなどは把握できない。ノ部の状況は、完璧には伝わっていないので、今後どうしていくかが課題である。ノイベントだけでなく、日常の様子を発信する機会を作るべきであった。ノ授業準備や他の業務の準備に追われて通信類の発信に手が回らなかった。ノ学期末など忙しい時期にはなかなか発信できなかった。